

## 令和5年度 第2回 学校運営協議会議事録

1 日 時 令和5年10月23日（月）午前10時から正午まで

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校  
（松崎高等学校会議室）

### 3 参加者

#### ○学校運営協議会委員

石田 博之 様 松崎町文化協会会長（欠席）  
菜野 倫克 様 松崎町桜田地区区長  
鈴木 久美子 様 障害者就業・生活支援センター「わ」職員  
鈴木 茂孝 様 とんび農園代表  
西島 卓 様 伊豆松崎分校PTA会長

#### ○教職員

校 長 松本 仁美（オンライン）  
教 頭 所 宗子 部主事 藤井 あや子

### 4 内 容

- (1) 「数学」授業参観
- (2) 開会
- (3) 校長挨拶
- (4) 伊豆松崎分校の教科学習（部主事より）
- (5) PTA 防災研修会 報告（PTA会長より）
- (6) 感想、意見
- (7) 前期学校自己評価とまとめ、後期の取り組み
- (8) 協議・意見交換「協働するチーム作り」
- (9) まとめ、閉会

### 5 議事録

#### PTA 防災研修会報告・授業等の感想

委員 ・PTAの研修会では、大震災を体験した講師から現実的な話を聞くことができた。食べ物や飲み物も大事だが、お金（現金）を持っていることが重要であると聞いて驚いた。配付される食糧

以外にお金が必要である。

- それぞれの地域のハザードマップを利用して危険を学ぶことも大切と感じた。

委員

- 訓練は、繰り返し行うことが大切だと感じている。保育士をしていた頃に毎月避難訓練を実施していた。津波の際は、海の近くにある園から丘にある中学校へ避難する。5歳児になると自分で動けるようになっていった。少ない職員で安全に避難させるためには自分で動けるよう繰り返し行うことが大切だと感じた。東日本大震災の時は中学校に避難していたが迎えに来る保護者が少なく、防災に対する意識の低さを感じた。テレビで地震のことは把握していたが他人事とっていた様子であった。その後保護者会を開き防災に対する意識付けを行った。

委員

- 防災用品の備えはできているか？食料など、食べられるものをそろえているのか？

- 支援を必用とする生徒が必要な支援を受けられるよう、マークやカード等で周囲に知らせる方法をとることも大事ではないか。

- 地域に避難所が足りていない。校舎内は生徒の居場所になることを町（行政）から地区に周知する必要があるのではないか。分かっているってもらうことが大切。

委員

- ふじのくに防災士をやっているの、食事やトイレについて必要があれば生徒に話ができる。
- 大震災では障害者への対応が後回しになった。障害のある方が守られる場所（福祉避難所）が必要。松崎地区には2か所しかない。

- 地区では年3回避難訓練を行っている。内容が同じことばかりになっている。何回も避難訓練をやっている分校生徒の方が避難については詳しいのではないか。生徒たちを巻き込んで一緒に何かできないかと思う一方で、生徒たちはどこまで理解しているかなど、関わり方が分からない状況でもある。普段から関わっていると声もかけやすくなる。

- 登下校に利用している公共のバスの運転手は、制服で分校の生徒であることが分かる。バス乗車中に被災した場合はマニュアルがあり高台に避難することになっているが、津波と土砂災害警戒区域でもありその場で判断することも必要になる。

教頭

- 備蓄食料として5日分の備えがある。家庭から生徒が食べられ

るものを持ってきてもらい、実際に食す訓練もある。防災の面からも、地域の方々との関りは普段から意識して取り入れ生徒の理解を促していくことが大切と感じる。来年度に向け、地域、保護者を巻き込んだ防災訓練を計画したい。また、学校は被災後、学校再開に向けた取り組みを行う必要があることを知らせ理解を促す必要がある。

- 委員
- ・授業に集中して取り組んでいた。家ではイヤホンをつけスマートフォンを見ている。話しかけないでという雰囲気を出している。
  - ・目標別の学習になっていたが、それでも能力差は見られる。もっと高い目標で取り組める生徒はさらに能力の引き上げをしてほしいと思う。

#### 協働するチーム作り（意見交換・協議等）

##### 学校より

- ・時代に合わせた人権感覚が重要になっている。
- ・不祥事根絶のため、風通しの良い職場作りを行っている。少ない人数だからこそ一人で抱えず組織で対応できるよう工夫したい。
- ・教員でなくてもできること等仕事を精選し、チームの活性化を図りたい。

##### 意見交換・協議

###### ○地域と協働

- ・地区では田植え、稲刈りを交流行事として行っている。生徒、保護者、教員の希望者が参加している。楽しんで参加しているので、休日であっても負担に感じていない。
- ・自分の子どもは自分が見るというように、保護者の意識付けが大事。生徒は保護者と一緒に参加という形式になっている。
- ・地区で行う休日のイベントは、地区で保険に加入している。
- ・地域の行事に参加することで親子の様子を知ることができたり、地域の方と顔見知りになったりと、参加する意義は大きい。災害時にも役立つことがあるかもしれない。
- ・収穫したもち米は11月3日の桜田地区の祭りで、投げ餅として使用する。小さいが分校にも配る予定。

### ○チーム学校

- ・「援助要請能力」を発揮するために、言いにくさがあると伝えられないので、ルール（マニュアル）を決めたらどうか。一人で抱え込んでどうしようもなくなり仕事を辞めてしまう若者もいる。相談できる人や場所をはじめから示しておくことで言いやすくなるのではないか。
- ・小規模校で言い合いやすい雰囲気もあると思うが、雰囲気を出すためにも具体的なマニュアル作りが必要だと思う。
- ・就労と職場実習は違い、そのギャップでつまづく子供が多い。日頃から自分でできることを積み重ね、達成感を味わいながら生活力をつけておくことが大切。就労を継続していくためには、「困った。」「助けて。」と発信できる力が大切。
- ・自分を知ったうえで、自分に必要な支援を伝えられることが大事。生徒だけでなく、教員にも必要な力だと感じる。
- ・規模が小さい学校だからこそ、いい意味で生徒と教員の距離が近い。情報を共有することで風通しもよくなる。

### ○教員でなくてもできること

- ・前回石田さんが言われた、元気で多くの生きる知恵をもっている地域の高齢者に、教員ではなくてもできる仕事をお願いするというのもよい。学校から具体的に依頼してもらえるといいのではないか。
- ・朝の見守りはどうか。地域の元気なお年寄りとの挨拶を交わし合い顔見知りになっていることで、共助につながることもある。
- ・朝は7時からラジオ体操を行っているのでその流れで挨拶運動に参加できないか提案してみる。
- ・校内でも、部活動や音楽、美術、作業学習といった学習に地域から講師を依頼し来てもらっている。とてもありがたい。
- ・防災訓練の時に生徒向けの話ができるので声をかけてほしい。
- ・PTAで参加した田植えや稲刈り、生徒の学習である地域作業（神社清掃）等、桜田区の助けが大きいと感謝している。これからは学校のみで行うのではなく地域の方と一緒に活動できる場を作りたい。

### 校長より

高等部では、地域に貢献できる子を育てている。市や町に関わりながら生徒も教員も、そして地域も育っていく。地域の特色を生かし資源を活用し地域の活性化につなげる。どのような関りができると地域ぐるみの活性化につながるのか。本校では市長に來校してもらい、実際

に現場を見てもらい意見を交わすことで、具体的な取り組みにつながるのではないかと考えている。規模は違うが本校の様子もぜひ見ていただき参考にしてもらえば。

#### 連絡

- ・12月3日 桜田区の防災訓練で、二次避難所（学校）に歩いて移動し確認する予定。
- ・次回3回目は、2月8日。内容は、一年間のまとめと来年度に向けた取り組みについて。よろしくお願いします。